



(当社社員 発表風景)

生成AIを介した 情報提供についての一考察

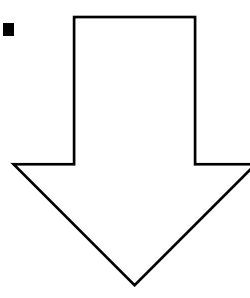
生成AIを介した情報提供についての一考察

*西村宗倫¹, 高田望², 柴川大雅²

¹: 国土交通省国土技術政策総合研究所, ²: 株式会社気象工学研究所

1. 要旨

- 筆者らは、気候変動による水資源への影響を研究している。研究で得た情報を社会に還元したいと考えており、その際、“対話型生成AIを介した情報提供”が1つの選択肢になると感じている。
- ただし、“対話型生成AIを介した情報提供”には、制約と機能性の両面がある。例えば、読込可能なWebには制限がある。フロント埋込型PDFや、認証が必要なWebは原則としてアクセス不能である。また、Web検索に比べ情報源の明示性が乏しく、対話型生成AIの情報誤認もあり、利用者のリテラシーに依存する。
- 一方で、対話型生成AIには、文脈的な理解力、多角的な視点から情報提示のほか、統計処理・データ分析機能、図表・グラフの生成機能等がある。複数の情報源から新たな情報の統合・生成機能も有する。



(まとめ)

- 対話型生成AIのおかげで、軽微な投資で、隙間的であっても、利便性の高い情報提供の実現可能性があることがケーススタディから確認。
- デジタル社会構築に伴い水需要が増大に懸念があるなら、その社会的解決にこそ対話型生成AIの活用を着想し、それを拡張して本稿を纏めた

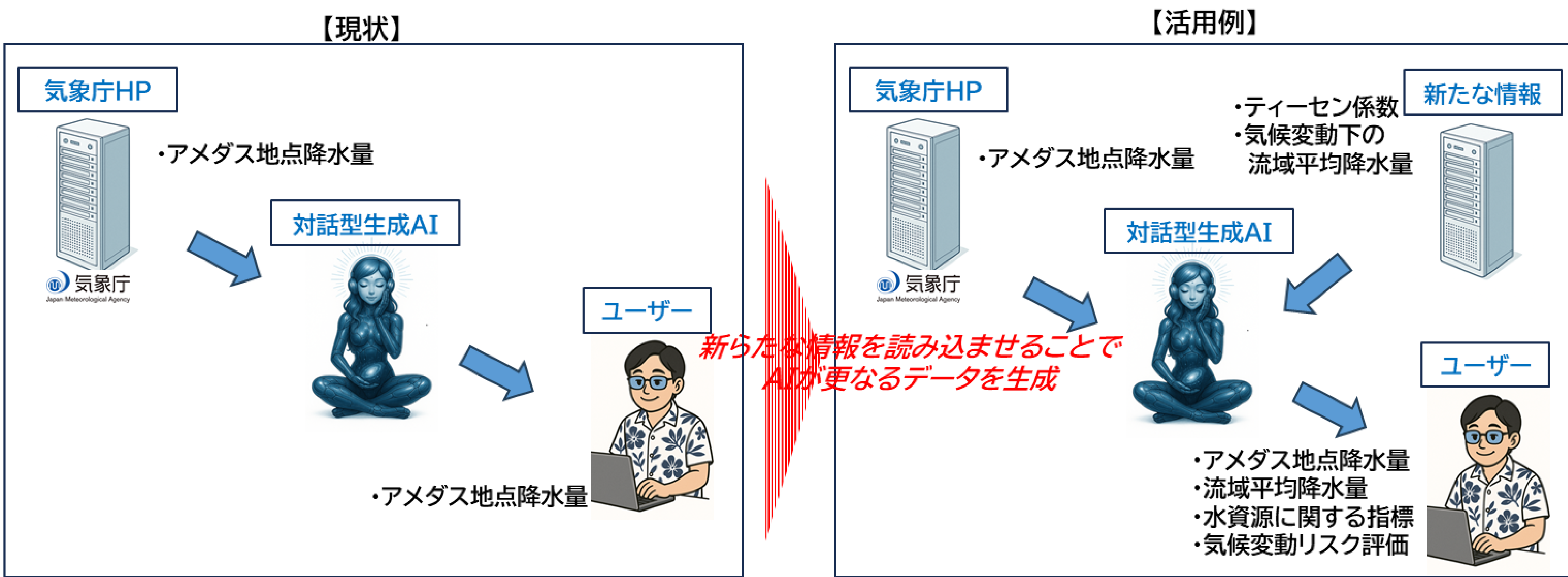


図-1 「生成AIを介した情報提供」のケーススタディ概念図

2. 「生成AIを介した情報提供の」のケーススタディの詳細

